

# お遍路さんいらっしやい ～お接待＝どうぞ～

## 設計主旨

お遍路さんをあなたは知っていますか？四国にある空海ゆかりの寺を巡る人たちのことです。そのお遍路さんに無償で食事や宿の提供など、おもてなしをするを「お接待」と言います。このお接待文化は四国各地に今も根付いています。

お接待を言い換えると「どうぞ」になると考えます。遍路道は峠道などの山の中を通るところも多く集落と集落を繋ぎながら次の札所へと向かいます。山間にある集落も多く、宿が近くにないところもたくさんあります。そんな集落に地域住民がお遍路さんをお接待(どうぞ)する建築を提案します。

この建物は1つの建物の設計をするのではなく、下に挙げる5つの要素を満たした建物の例として4つの建物を設計しました。これらの5つの要素を満たすことによりお遍路さんがいない時は地域住民同士のコミュニケーションの場所となります。お遍路さんがいる時はお接待(どうぞ)を通して地域住民とお遍路さん(都会から来た若い世代の人など)との触れ合いの場となり新しい風を吹き込むことを目指します。

## 5つの要素

①和の建物	山間の集落や田園地帯などの風景に溶け込ませる
②縁側 [ウッドデッキ] がある	縁側を設けることで、腰掛けながら地域住民とのお話をする場を作る
③地域住民同士のコミュニケーションの場	お遍路さんが滞在していない時は地域住民が普段の生活で活用できる場所を設ける
④お遍路さんのくつろげる場	長い道のりを歩いてきたお遍路さんにゆったり休んでもらう場所を設ける
⑤建築面積60㎡以下	山間部の集落などは狭い土地が多く、こじんまりとした建物で落ち着いてもらう

## 巡礼手段

### 徒歩

通し打ちで1日あたり8～10時間、20～30km歩いて、約45日かかります。お遍路にかかる費用は、交通費、宿泊代、食費、納経代(御朱印代)がありますが、歩き遍路では宿泊代と食費代がほとんどを占めます。だいたいい日あたり1万円かかるとおぼろげに思っておきましょう。メリットは、なんといっても入道のコミュニケーションがとれること。道端で休んでいれば地元の人が飲み物などのお接待を受けたり、善根宿(ぜんこんやど)と呼ばれる善覚の宿泊所に泊めてもらったり、「ご縁」に助けられてつつ歩き通すことは、きつかけがえのない経験となることでしょ。

デメリットは、もともと日数がかかること。その分だけ費用が大きくなります。また、遍路道は平地だけではなく、登山のような険しい道もありますので、「健脚」が必要です。体力を消耗したり、予期せぬケガなどがあつた場合は、無理せず柔軟にタクシーやバスなどを利用するのもおススメ。特に、札所と札所の間の距離が大きい区間(例:23番～24番75.4kmなど)は、路線バスを利用するのも一つの手段。区切り打ちの場合は、そういった区間を省略する選択もあります。

### バスツアー、タクシーツアー

バスツアー、タクシーツアーは、タクシーと共に、通し打ちで12日間程度で巡るものや、2回に分けて6泊7日程度で巡るもの、3～4回に分けて3泊4日程度で巡るツアーなどがあります。首都圏から飛行機で四国に飛び、1～2泊程度で区切り打ちをするものがセットになったツアーもあります。メリットはなんといっても専門スタッフが全部お任せ出来ること。予備知識がなくても参加できます。先達さん(せんだつさん)(4回以上お遍路を巡り、霊場にも認められている人)が同行するツアーでは、知識豊富な解説を聞きながら巡ることもできます。デメリットは「自分のペースで回れない」こと。回数を加減できず、四国までの交通費がかさむことでもあります。

### 車・レンタカー

通し打ちで1日約150km移動したことで、約10日間、約15万円が必要。レンタカーの場合は、1日あたり5000円から1万円程度をプラスしましょう。メリットは、もともと回期間で巡ることができること。1日で10ヶ所以上を回ることも可能です。また、夫婦やグループなど複数人で同乗すれば一人当たりの費用が少し圧縮できます。デメリットは、長時間の運転なので、気をつけましょう。くれぐれも安全運転です。

### 参拝手順

1. 札、ご挨拶  
まずは山門や入り口で札。「これからお参りさせていただきます」の気持ちを込めて。
2. お清め  
手水場にて、手を洗い、口をすすいで身を清めます。最後に残りの水でひしゃくの水をすすぎます。
3. 焼打ち  
多分前に焼香でゆくりと焼をたたくように。仏さまに参拝を知らせる意味があるとされています。焼打ちは、可能な所と不可能な所があるので注意を。参拝後につくは「焼り焼」と言って焼香が悪いとされています。
4. 納札・写経  
本堂にて納札箱に納札や写経を納め、灯明(規帯)1本お焼香(3本)を上げます。規帯は、後の人のために奥から立てていくとよい。
5. 読経  
お経巻を納めて合掌します。読巻を手に持って読経するのが本来の姿ですが、心を込めて手を合わせるだけでもよい。
6. ハチハハ所すべてに、本堂の他に大師堂があるので、そちらも4～5を同じ手順で行う。
7. 納経受付  
すべての参拝が終わったら、納経所に納経長に御朱印などをいただきます。参拝が終われば、山門を出るときは振り返って一礼。

## 巡り方

お遍路には、決まった巡り方はありません。いつ、どこから始めてもよく、また、順序通りに巡らなくても大丈夫。1度ですべての札所を巡ることを通し打ちと呼びますが、必ずしも通し打ちでなくてもOK。無理せず自分なりのスケジュールで巡るのが一番です。

### 順打ち

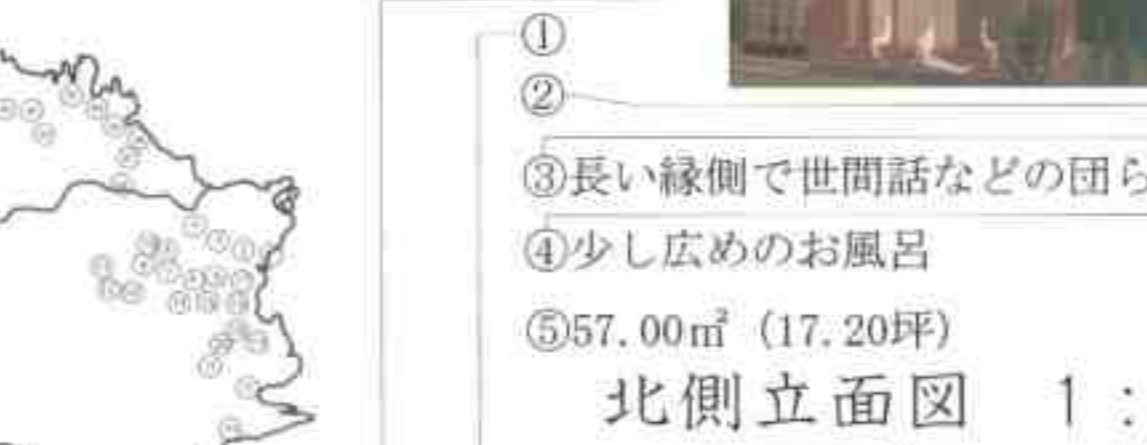
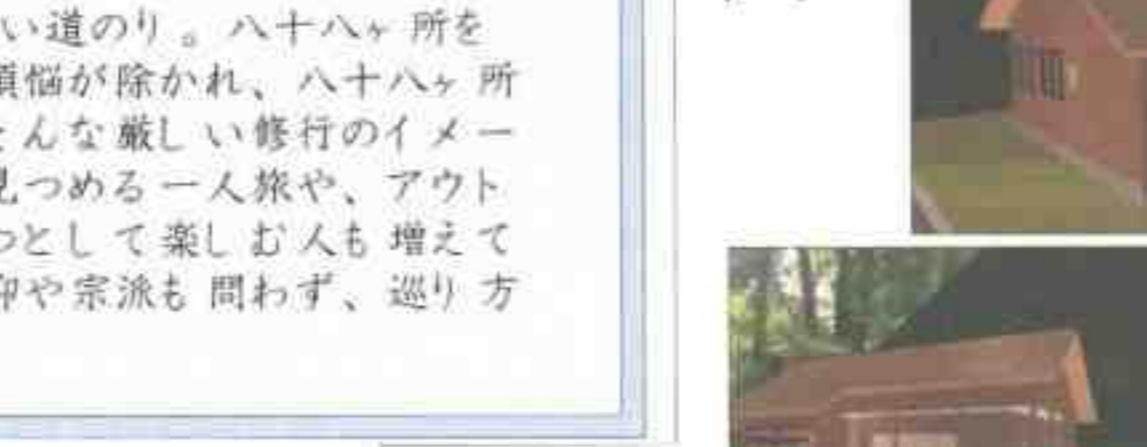
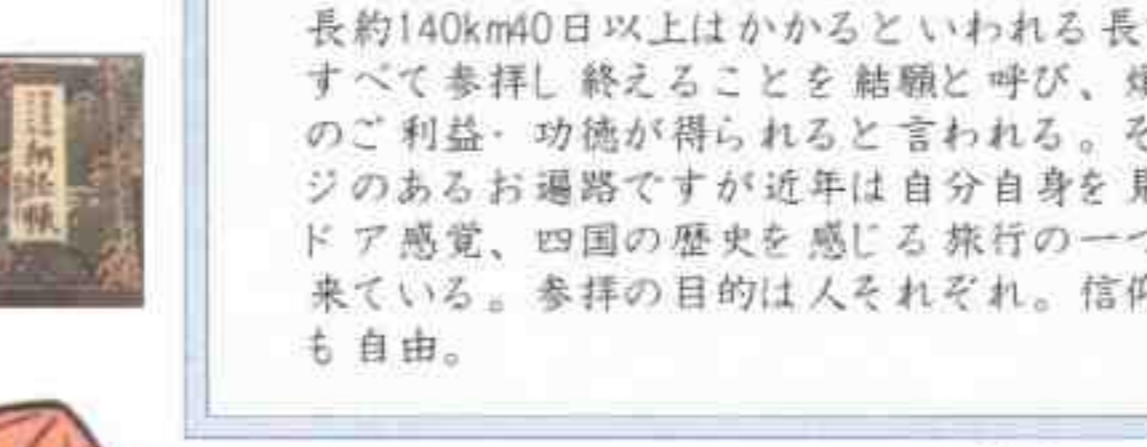
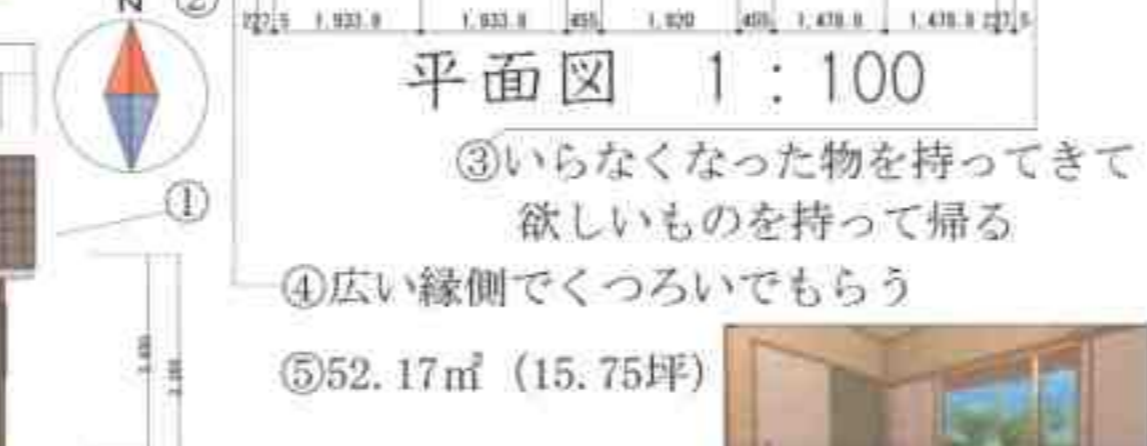
札所(霊場)には1番から88番までありますが、この数字の通りに巡ることを順打ちと言います。順打ちの場合、徳島県徳島市にある1番札所「霊山寺(りょうざんじ)」から、香川県高松市にある88番札所「大窪寺(おおくぼじ)」まで、上から見て四国を右回りに回ります。順打ちには道順が比較的わかりやすく、基本となる巡り方です。  
善根宿(ぜんこんやど)には、船乗(おけり)や金剛(こんごう)というお遍路に必要なグッズがそろっていて、手ぶらでスタートしてもここですべて購入できます。  
1～5番札所(計10.9km)は徒歩でも1日で打ける距離。6番札所・安楽寺(16.2km)まで出張れば、ちょうど昼時と温泉があります。  
順打ちでは最後の札所となる88番札所「大窪寺(おおくぼじ)」までたどり着くと、結願した人の金刺状がたくさん奉納されているのを見ることが出来ます。

### 区切り打ち

一度に全部回らず、何回かに分けて回ることその中でも阿波・土佐・伊予・讃岐の4つに分けて回ることを一國参りと呼ぶ。札所の順序にこだわらずに、いけるところから参拝することを乱れ打ちとよぶことがある。

### 乱れ打ち

札所の順序にこだわらずに、いけるところから参拝することを乱れ打ちとよぶことがある。

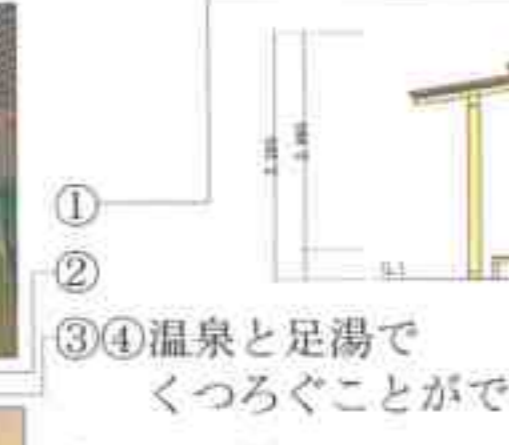
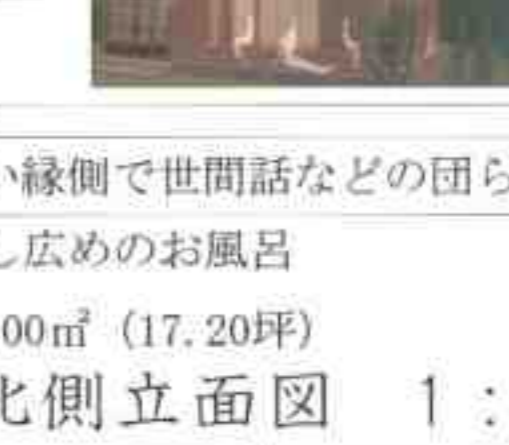


## お遍路とは？

阿波(徳島県)・土佐(高知県)・伊予(愛媛県)・讃岐(香川)に点在している弘法大師(空海)ゆかりの八十八ヶ所の霊場を訪ねて四国を巡る旅です。すべての行程を「通し打ち」で歩くと全長約140km40日以上はかかるといわれる長い道のり。八十八ヶ所すべてを参拝し終えることを結願と呼び、煩惱が除かれ、八十八ヶ所のご利益・功德が得られると言われる。そんな厳しい修行のイメージのあるお遍路ですが近年は自分自身を見つめる一人旅や、アウトドア感覚、四国の歴史を感じる旅行の一つとして楽しむ人も増えてきている。参拝の目的は人それぞれ。信仰や宗派も問わず、巡り方も自由。



## 例3



## 例4

